

3. 取り組みの方向性

「生涯にわたって自ら学び続ける感性豊かなひとづくり」を実現するために、以下の3つの視点を重視しながら取り組みを進めます。

① まなぶ 学ぶ

【学びのまち】

学びの芽・学びの心を育み、学びを深め、学びを広げ、さらにこれらを有機的につなげる「学びのまち犬山」らしい、幅広く厚みと深みのある施策を展開します。

【感動の共有】

学び合いには相互の感動の伝達が不可欠です。教える側は感動を伝える喜びを、学ぶ側はわかる感動を体感でき、感動を共有できる学び合いの場づくりを進めます。

【学びと遊び】

子どもは、遊びや体験、人との関わりを通じて、社会性や自立心、コミュニケーション力など多くのことを学びます。「遊びの中に学びあり、学びの中に遊びあり」という考えのもと、健やかな育ちを支援する教育・保育を充実します。

② つながる 繋がる

【活躍の場づくり】

犬山市の強みである豊富な地域資源を活かし、まちを舞台にいろいろな人がいろいろなテーマで出会い、参加し、活躍でき、ひとづくりの担い手としての満足度を高められる場づくりを支援します。

【郷土愛と豊かな心の育成】

伝統・文化・芸術・スポーツなどを通じた人の繋がりを大切にして、他を思いやり礼節や約束を守り、「ふるさと犬山」を愛する豊かな心と人間性を育てる教育を充実します。

【地域間交流の促進】

多文化共生や世代間交流の促進により、お互いの価値を認め合い、尊敬する心を育みます。

③ つくる 創る

【感性を育む】

次代を担う子どもたちの豊かな感性を育むため、すべての学びの基礎となる国語力を高める取り組みを進めます。

【結婚や子育てへの憧れの喚起】

子育ての喜びを若い人に伝え、子育てを社会や地域で支える仕組みを整備し、結婚や子育てへの憧れを抱けるようにします。

【連携による推進】

多分野の政策間連携により、個々の教育施策の付加価値を高めます。

犬山市教育大綱（素案）

平成29年3月

犬山市

1. 学びのまち犬山をめざして

人生を豊かにする。豊かさの質を高める！

誰もが、一度きりの人生を豊かなものにしたいと願っていますが、それを実現するためには、学びや遊びに対して、どれだけ意欲的になれるかが重要です。

人は、「自ら学び続ける」ことで、人生を豊かにするだけでなく、豊かさの質を高めることができます。

個性あふれる地域資源を活かす！

犬山市は、豊かな自然や文化財などの個性あふれる地域資源に恵まれ、都心へのアクセスも良好で、子どもを産み、育てるのに最適なまちです。私たちの感性を育み、「学び」にとって最良の教材と言える地域資源を、これまで以上にひとつづくりに活かしていきます。

「ひとつづくり」を「まちづくり」の根幹に！

これからの時代は、変化をチャンスと捉え、積極的な思考と行動により、新しい価値を創造していくことが重要となります。その基礎となるのが感性です。「まちづくり」は「ひとつづくり」の信念のもと、「ひとつづくり」を「まちづくり」の根幹に置き、犬山らしい「感性豊かな」ひとつづくりを進めます。

担い手同士の連携プレーで取り組む！

市民一人ひとりが、生涯にわたって自ら学び続けながら、それぞれが、家庭、地域などにおいて教育の担い手となって、その担い手同士の連携プレーにより、犬山市全体で「学びのまち犬山」の実現をめざして取り組みます。

「暮らしたい」「訪れたい」まちへ！

市民自らが、地域の中で学び続けることによって、それぞれの地域の魅力を再認識し、愛着をもってまちづくりを推進することで、「学びのまち」が犬山市の求心力となり、市内に住む人が「ずっと暮らしたい」、市外の人が「訪れたい」、「ここで暮らしたい」と思えるまちになります。

基本理念(めざす方向性)

生涯にわたって自ら学び続ける感性豊かな
ひとつづくり

2. 基本理念の実現に向けて

本気で向き合おう！

基本理念の実現に向けて、家庭や地域、教育委員会・市、学校・子ども未来園などの様々な主体が、担い手としての自覚を持ち、自らの役割を果たしつつ、お互いに連携・協力しながら取組みを推進していくことが重要です。

そのためには、それぞれの主体が、**本気で向き合う**必要があります。

